

決算特別委員会会議録

日時 平成22年10月25日(月) 開会時間 午後1時35分
閉会時間 午後2時38分

場所 第3委員会室

委員出席者 委員長 中村 正則
副委員長 木村 富貴子
委員 前島 茂松 深沢 登志夫 土屋 直 清水 武則
高野 剛 森屋 宏 渡辺 英機 山下 政樹
鈴木 幹夫 石井 脩徳 中込 博文 堀内 富久
白壁 賢一 金丸 直道 進藤 純世 安本 美紀

委員欠席者 なし

説明のため出席した者

県土整備部長 小池 一男 理事 河西 邦夫 県土整備部次長 酒谷 幸彦
県土整備部技監 山本 力 県土整備部技監 上田 仁
総括技術審査監 樋川 和芳 県土整備総務課長 末木 正文
美しい県土づくり推進室長 山口 雅典 建設業対策室長 秋山 剛
用地課長 市川 正安 技術管理課長 中嶋 晴彦 道路整備課長 野中 均
高速道路推進室長 市川 成人 道路管理課長 丸山 正視
治水課長 井上 和司 砂防課長 伊藤 学樹 都市計画課長 河西 秀樹
下水道課長 小野 邦弘 建築住宅課長 和田 健一 営繕課長 石原 光広

出納局次長(会計課長事務取扱) 佐藤 浩一

公営企業管理者 小林 勝己 企業局長 西山 学
電気課長 石原 茂 総務課総括課長補佐 渡辺 恭男

議題 認第1号 平成21年度山梨県一般会計及び各特別会計歳入歳出決算認定の件
認第2号 平成21年度山梨県公営企業会計決算認定の件

審査の概要 午後1時35分から午後2時2分まで県土整備部関係、午後2時20分から午後2時38分まで企業局関係の部局審査を行った。

質疑 県土整備部関係

(経済対策の効果について)

森屋委員 細かい個々の事業ということではなくて、総論的な話としてさせていただきます。先週、総務部の審査でもお話させていただきましたが、平成21年度は財政面から見ると、かなり特殊な年でした。景気がだいぶ落ち込んだこと、また、数次にわたる経済対策がありました。これは都道府県のスタンスからすると、この10年近くは公共事業削減というベクトルでしたから、皆さん方も本当にやりたい事業がなかなかできないというところでの経済対策ということで、財政的な支援があり、過去

から積み重ねてきた問題が解決できた、着手できたのではないかと思います。

一方において、皆さんにとっては忙しい1年だったろうなと思うわけですが、個々の事業ではなく、総論として、21年度を振り返って、今まで県土整備部が抱えていた課題を経済対策、国からの支援によって、どのくらい解決できたのか、着手できたかをお聞かせください。

上田県土整備部技監 総論的ということですが、道路事業で言えば、懸案となっていた若彦トンネルが完成したということで、すべての事業が少しずつ前倒し執行できたということであろうと思います。当然、完成年度はそろえてありますので、そのときには必要な予算は確保してあるのですけれども、そのために、次の事業が少しおくれる。さらに先の事業は着手できないということがあったわけでありましてけれども、総体的に前に動いてきたと感じております。経済対策そのものが、いくつかの政策目標との関係もあったことから、国に合わせた震災対策などは進んでいなかったとは思いますが。県としては、維持・管理費などに予算が足りないということで、その辺についての課題はまだ残っております。

森屋委員

今までのストックがあった時代はいいのですけれども、これから将来に向けて、実績をつくってきた中で、国から来た予算が有意義に執行されたと。

総体的な一般財政としての予算額は減少傾向にあるわけですが、県土整備部にとっては、やらなければならない事業は山積みされているわけですから、いかに理由づけしておくかということは、とても大切なことだと思います。職員の数もだいぶ削減されて大変厳しい中ですが、当初予算としてやらなければならない仕事をやりながらも、理由付けをしっかりと公共事業の確保を進めていかなければいけない、進めておいてもらいたいと思います。

以前、土木森林環境委員会に所属させていただいたときに、青森県では、県内に架け替えをしなければならない橋梁がたくさんあり、それを全部ランク付けしておいて、目に見える形に整理していた。当然、その初年度の予算ではできる範囲は限られており、予算がないから今すぐできるわけではないけれども、やるべき仕事を常に見える形で用意しておくことが非常に大切だなと思います。今回の9月補正でも橋梁整備などの予算が計上されたようですが、今後こういうことがあるかもしれない。せっかく21年度に大きなお金がきたけれども、決算を見ましたら、突然の数次にわたる補正予算でしたから、明許繰り越しなど、執行できなかったものもたくさんあるわけです。それはしょうがないことだけれども、山梨県内に公共事業として道路整備や橋梁整備、トンネル等やらなければならない課題がたくさんあると思うんです。ぜひそれを、将来に向けて、私たちや県民にも目に見える形で用意しておいてほしいということを強く思いました。今回の決算を見せてもらって、たくさん補正予算が来ているんだけど、特に経済対策でお金を使ってもらうためには、やはりこういう方法が私はベターであると思っていますが、いかがでしょう。

小池県土整備部長 今、委員からお話があったように、公共事業を進める上で、景気等の影響で予算もなく厳しい状態になっている。そうはいっても、やらなければならない安全安心の事業や、交流促進などのための事業がたくさんあります。そういった事業については、しっかりと公共事業評価をして、投資効果等をみながら進めていくわけですが、その前提として、見える化という話がありました。県では、先を見通した5年間の社会資本整備重点計画を策定しています。この中で、安全安心の分野、交流の分野などいろんな面で課題を掘り出して、5年後には大体こんな方向ですということをお示ししております。

また、橋梁についても、今までやっていた対処療法的な対策から、事前に補修等を計画的に進めていくという長寿命化計画を作成し、これはホームページでも公表していますが、今後、数年間でこういったものやっていくというのをお示しています。

全体的な話をさせていただくと、土木構造物をつくり出してから、古いものは50年を超えるような状況になっており、老朽化も激しくなっています。これら橋梁等、今ある資産をいかに長持ちさせて、コストダウンさせてやっていくかということが大きな課題になっていますので、そういったことも含めて、全体的にいろいろな課題を浮かび上がらせて、整理して、その上で計画を策定し、それに基づき実施しています。

今後もそういった形で、より計画的に、より効率的・効果的に事業等を進めてまいりたいと考えています。

質疑 公営企業関係

(指定管理者の納入金について)

山下委員 資料3ページ、指定管理者の納入金が、平成20年度は1億5,000万円、平成21年度は1億3,000万円ということで、確か議会でも議案としてかけられたと思うのですが、もう一度、なぜこの金額を減額したのか、教えてください。

渡辺総括課長補佐 指定管理者の納入金については、県と交わした協定書の中で、1億5,000万円とされており、また、その中で、5年を経過した際に、例えば重油の値上がりなど、指定管理者の責によらない経済的に大きな変動があった場合には、両方で協議することとなっています。昨年度、指定管理者から協議があり、私どもで検討させていただいた結果、主に重油が大幅に値上がりしている分について、これは指定管理者の経営努力で補うには無理があるのかなという検討をし、納入金を1億3,000万円としたところであります。

山下委員 もう一度、その理由を確認させてください。重油が大幅に値上がりしたことは覚えていますし、県のみなさんには石和温泉観光協会としても重油を値下げしてもらっていることも覚えていますので、それとこれとどう違うんだと言われれば同じだと思います。

ただ一つ、2,000万円という数字について、値上がりした幅がそれだけあったから2,000万円ということですか。たとえば重油が100円値上がりして、今まで使っていた総額から割り出したら2,000万円ぐらいあった。だから2,000万円減額したのか。それとも経営上、ここ5年間くらいは約2,000万円の赤字を計上しているんですよね。だからその2,000万円をもって、減額したのか、どちらですか。

西山企業局長 重油の値段ですが、平成15年度は915万5,000円で、平成20年度は1,872万円ですので、1,000万円の増になっています。

2,000万円の根拠ですが、重油代が1,000万円、それと客単価が落ちていまして、その分が1,000万円で、合わせて2,000万円ということで、1億5,000万円が1億3,000万円になっています。

山下委員 極端な話をしてしまえば、こんな状態になったから県が補填するのであれば、指

定管理者はこの会社でなくてもいいじゃないですか。まるでこの会社のために、重油分の1,000万円ですむところを2,000万円減額した。残りの1,000万円は、客単価が下がっているからそれを補填するためというのは、ちょっと意味が違うんじゃないかと思えますけど。総括審査でさせていただきますので、今日は以上にさせていただきます。

以 上

決算特別委員長 中村 正則